

千代田都市づくり白書

～都市の特性と魅力～

〔1〕 本編



CONTENTS

はじめに 白書の意義・千代田区の特性

1. 国際都市・首都東京における千代田区

- | | |
|--------------------------|---|
| 1.1. 国際都市・首都東京を牽引する千代田区 | 2 |
| 1.2. 世界都心としての都市再生が進む千代田区 | 4 |
| 1.3. 個性ある多様な拠点が集積する千代田区 | 6 |
| 1.4. 快適で豊かな都心居住が進む千代田区 | 8 |

2. ちよだの都市づくりの系譜

- | | |
|----------------------------|----|
| 2.1. 江戸期のまちのはじまり | 12 |
| 2.2. 社会の変化と都市の変遷 | 14 |
| 2.3. 時代の積み重ねのなかで育まれた個性ある界隈 | 16 |
| 2.4. 成熟時代の都市づくり・まちづくりの到達点 | 18 |

3. 都心「ちよだ」の魅力・価値

- | | |
|-----------------------------|----|
| 3.1. 歴史が育んだ風格・文化と先端性が調和する都心 | 22 |
| 3.2. 都心の多様な生活スタイル | 24 |
| 3.3. ひとつつながり、都心の多様な価値を育てる力 | 26 |
| 3.4. 多様で高度な都心の移動ネットワーク | 30 |
| 3.5. 豊かなみどりと水辺に彩られた都心 | 32 |
| 3.6. 環境・エネルギー基盤が支えるスマートな都心 | 36 |
| 3.7. 大規模災害にそなえた都心の対応力 | 38 |

4. 「ちよだ」の骨格軸とエリア

- | | |
|-----------------|----|
| 4.1. 「ちよだ」の骨格軸 | 42 |
| 4.2. 神田エリア | 46 |
| 4.3. 番町・麴町エリア | 48 |
| 4.4. 飯田橋・富士見エリア | 50 |

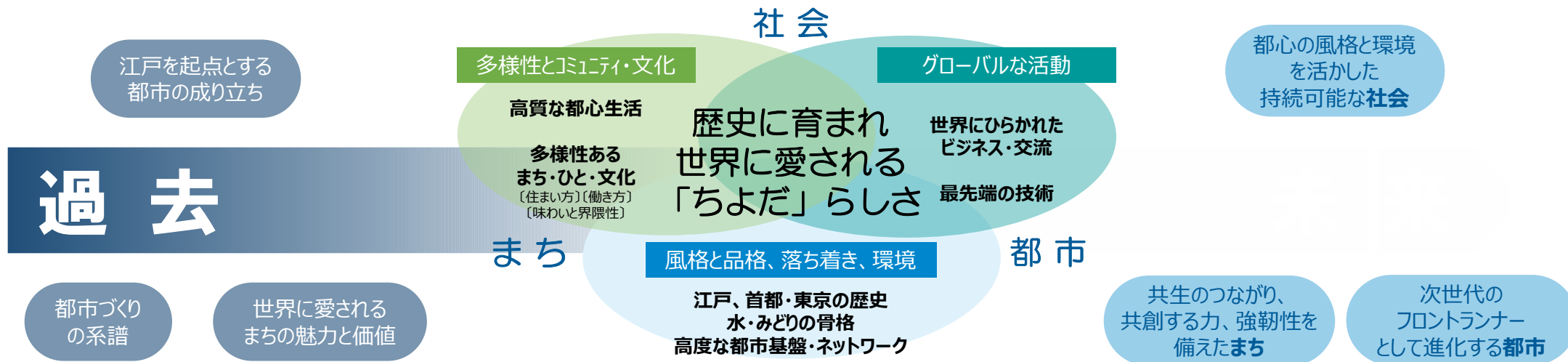


はじめに 「ちよだ」の都市・まちの系譜といま、そしてこれから。

およそ20年前、平成12（2000）年の千代田区には、急激な地価高騰と業務地化の波が押し寄せ人口が急減、常住夜間は3万人台となり、「自治体存続の危機」に陥りました。

このころ、平成10（1998）年には20年後の千代田区の都市づくりのビジョン「千代田区都市計画マスタープラン」を策定し住機能の回復を目指して様々な施策に取り組み、平成25（2013）年には5万人を回復し、その後も人口は増加を続けています。

定住人口の回復という目標を達成した今、江戸以来わが国の活力を牽引してきた都市の系譜と、そこで育まれた魅力・価値を継承するとともに、環境・情報等の先端技術を活かしながら、大規模災害などにも強靱な都市、多様な人々や文化が交流し、自然・環境と経済が調和した共生社会に向け、これまでの都市づくりのビジョンをどのように見直していくべきでしょうか？



この白書は、区と区民、区内の団体、事業者等多様な主体が、20年後、おおむね2040年の千代田区のより良い都市づくりの実現に向けて、都市としての可能性や取り組むべき課題について、議論を深めていくための素材として、次の2部構成で作成するものです。

一刻も歩みを止めることなく動き続ける中枢都市でありながら、多様な人々が豊かな都心生活をおくる「ちよだ」の今後の都市づくりの方向性を考える素材、きっかけになれば幸いです。

第1部 「都市の特性と魅力」編

国際都市・首都東京における千代田区の位置付けを確認し、江戸期以降わが国の政治、経済、教育・文化の中心として発展してきた都市の歴史を振り返り、明治期以降、首都の中核として展開されてきた都市づくりの方針や都市政策を概観します。

そして、千代田区の都市としての魅力や価値を整理するとともに、おおむね20年後を見据え、都市を取り巻く内外の環境の変化を踏まえ、今後の都市としての可能性を展望します。

第2部 「データ・資料」編

千代田区の都市を取り巻く内外の環境の変化、都市の現況を示す基礎データや、これまでの都市づくり施策の成果・到達点を検証・確認します。

はじめに 千代田区固有の地域特性 ～象徴性と代表性～




千代田区には、ここにしかない地域特性として、首都機能の集積に伴う都市の「象徴性」、「代表性」があります。区の中にはわが国を象徴する「皇居」等があり、その南側の永田町・霞が関地域には、国会、最高裁判所、内閣府及び防衛省を除く各省など、立法・司法・行政の中核機能が集積しています。

面積	※1,164.00ha
うち皇居等 (靖国神社・ 北の丸公園・千代田・ 皇居外苑・日比谷公園)	259.54ha (22.3%)
うち一団地の 官公庁施設	103.00ha (8.8%)
標高	約2～約36m
東西	約4km
南北	約4km
緯度・経度 (千代田区役所)	北緯 35°41′ 東経139°45′

※国土地理院の全国都道府県市区町村別面積調べでは1,166haですが、都市計画上の面積は、1,164haとしています。



撮影年月：平成28年10月、出典：千代田の土地利用2018

-  データ編参照
-  土地利用 ⇒ P 37～42
-  建物利用 ⇒ P 43～P 48

はじめに 千代田区固有の地域特性 ～多様性と中心性～

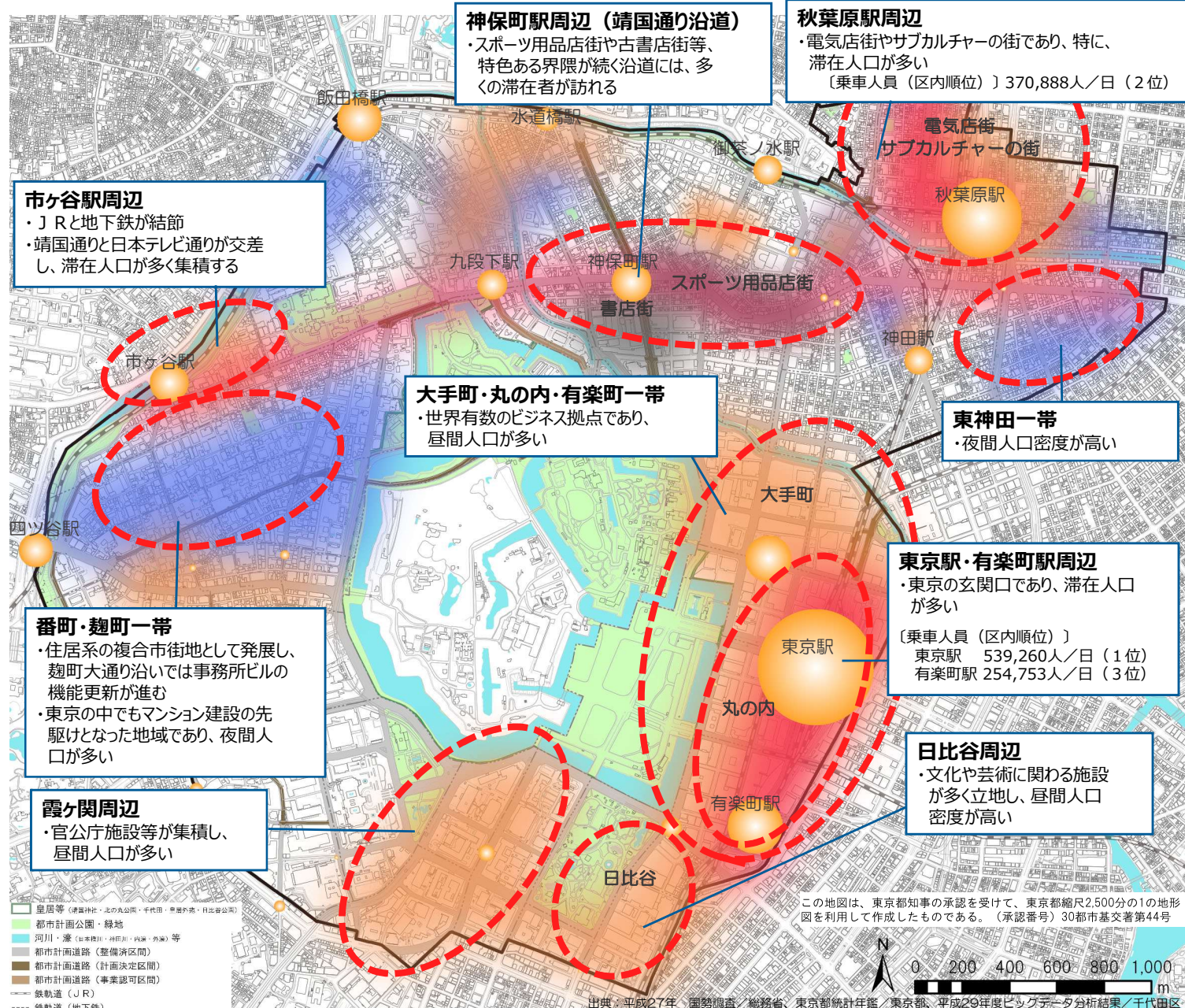
千代田区には、官公庁、企業、教育機関が高度に集積しています。また、国際ビジネス都市、観光都市東京の中心にあって、わが国の高速鉄道網の結節点東京駅があります。多くの人々が学び働き交流するとともに、都心居住も進展し、多様な人々の生活・活動の場になっています。こうした多様な人々の生活・活動に対応した都市づくりが求められます。

昼間人口が多いエリア
秋葉原駅周辺 大手町～霞ヶ関一帯 ほか
 (昼間人口)
 130,000～260,000人/km²程度の集積

滞在人口が多いエリア
秋葉原駅周辺 東京駅～大手町駅周辺 靖国通り沿道 ほか
 (滞在人口)
 特に日中～夜間にかけて、外国人観光客を含めた滞在者が多く集積

夜間人口が多いエリア
飯田橋周辺 番町・麹町一帯 ほか
 (夜間人口)
 1,500～3,000人/km²程度の集積

データ編参照
多様な人口⇒ P 31～P37



世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるために世界各国が合意した17の目標と169のターゲット

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、貧困問題をはじめ、気候変動や生物多様性、エネルギーなど、持続可能な社会をつくるために世界が一致して取り組むべきビジョンや課題が網羅されています。

SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、国も積極的に取り組んでいます。

世界の共通言語であり、わが国においても、グローバル化が急速に進む社会、経済、環境上の様々な課題に対して、世界各国の市民や企業、行政が協働して取り組んでいくためのキーワードとなるなど、これからの都市づくりを考える上でも重要な視点として意識されはじめています。

Goal 1	貧困をなくそう	Goal 10	人や国の不平等をなくそう
Goal 2	飢餓をゼロに	Goal 11	住み続けられるまちづくりを
Goal 3	すべての人に健康と福祉を	Goal 12	つくる責任つかう責任
Goal 4	質の高い教育をみんなに	Goal 13	気候変動に具体的な対策を
Goal 5	ジェンダー平等を実現しよう	Goal 14	海の豊かさを守ろう
Goal 6	安全な水とトイレを世界中に	Goal 15	陸の豊かさまもろう
Goal 7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	Goal 16	平和と公正をすべての人に
Goal 8	働きがいも経済成長も	Goal 17	パートナーシップで目標を達成しよう
Goal 9	産業と技術革新の基盤をつくろう		



出典：私たちのまちにとってのSDGs導入のためのガイドライン（一般財団法人建築環境・省エネルギー機構）

11 住み続けられるまちづくりを

SDGsのゴールの中で、Goal 11【住み続けられるまちづくり】は「都市SDGs」呼ばれています。住宅供給、交通整備、都市計画、環境保全、公共空間の整備などをターゲットとしています。

都市は、エネルギーや交通、上下水道、情報等多種多様なシステムから構成されており、システム間の連携や統合が強く求められる空間であり、従って、都市ではSDGsの様々なゴールを視野に入れて統合的なアプローチが求められます。このゴールは他の16のゴールの縮図と捉えることもでき、都市関連のゴールがSDGsに組み込まれた背景には、全世界で急速に都市化が進む中で、総合的アプローチに基づく持続可能なまちづくりを実践することによって他のSDGsの推進を加速させる狙いもありそうです。